

平成22年度
石狩浜海浜植物保護センター活動報告

石狩市市民生活部環境室
石狩浜海浜植物保護センター

目次

事業概要	・・・・・・・・・・	1
1. 普及活動	・・・・・・・・・・	1
2. 調査・研究	・・・・・・・・・・	8
3. 見本園の整備・苗の育成	・・・・・・・・・・	11
4. 環境整備事業	・・・・・・・・・・	13
5. 来館者数	・・・・・・・・・・	14
6. 保護・回復対策	・・・・・・・・・・	15
資料		
行事参加者アンケート結果	・・・・・・・・・・	17
センター利用者アンケート結果	・・・・・・・・・・	18
沿革		
海浜植物保護センター開設の目的	・・・・・・・・・・	20
施設と業務内容	・・・・・・・・・・	20
管理運営・組織図	・・・・・・・・・・	21

事業概要

石狩浜海浜植物保護センターは、将来にわたって自然豊かな海辺環境を伝えていくため、石狩浜の植生及び海浜生態系の保全を目指し、海岸利用者や市民への普及啓発、海浜生態系や海岸利用に関する調査研究、植生の保護・回復対策などに、市民、研究機関と協働で取り組んでいます。

普及啓発活動では、自然観察会や各種講座、学校等への学習指導、展示および通信誌やHP上での情報発信等に取り組んでいます。

調査研究では、海浜植生の回復方法を探るための試験、長期的な植生のモニタリング、動植物の定期観察などに取り組んでいます。

保護・回復対策では、植生保護柵の設置及び保護区における監視員の配置、また、関係機関による連絡会議を設け、石狩浜の環境保全を図っています。

その他、石狩灯台周辺の景観保全、見本園や観察路づくり等の環境整備、他地域との交流活動等に取り組んでいます。

1. 普及啓発活動

1. 自然観察会等

平成22年度は、以下のとおり実施しました。

表 1-1 平成22年度自然観察会等の開催状況

■石狩浜・マクンベツ湿原自然観察会

6月12日（土） 参加者28名

はまなすの丘とマクンベツ湿原の野鳥や植物の観察。

指導：樋口 孝城さん、岩崎孝博さん（石狩鳥類研究会）

■夏休みミニ自然教室

7月24,25,31日、8月1,7,8日（いずれも土日） 参加者166名

海浜植物保護センターでクラフト遊び、見本園での自然観察。

指導：石狩浜自然案内人の会

■夏休み自由研究教室～砂の秘密を探る～

7月31日（土） 参加者3名

砂丘を形成する砂をテーマにした野外観察、顕微鏡観察、実験、及びレポートづくり。

指導：石狩浜自然案内人

■夏休みこども自然教室～海辺の草木で染めてみよう～

8月5日（木） 参加者11名

ハマナスやハマニンニクでの草木染めと、海辺の植物について学習。

指導：石狩浜自然案内人の会

■海辺の自然教室～ハマナスの実でジャムづくり～

9月4日(土) 参加者 午前22名 午後21名 ※同一プログラムで午前午後2回実施
ハマナスの実でジャム作りと自然観察、クラフト遊び。
指導：石狩浜自然案内人の会

■石狩浜野鳥観察会

9月11日(土) 参加者25名
石狩川河口の砂浜を巡り、シギチドリ類や海浜植物を観察。
指導：樋口 孝城さん、岩崎 孝博さん(石狩鳥類研究会) 主催：川の博物館

■石狩浜こども自然教室

10月9日(土) 参加者7名
ネイチャーゲームによる自然観察と学習、砂や貝がらによる砂絵やクラフト遊び。
指導：石狩浜自然案内人の会



石狩浜マクンバツ湿原自然観察会
(6/12)



こども自然教室 浜辺で砂鉄集め
(10/9)

2. 海辺の自然塾

海浜環境に関する市民ボランティアのための学習会として、専門家と双方向的な情報交換ができる座談会形式の講座を、平成21年度より継続的に開催しています。平成22年の開催状況は表1-2のとおりです。

表1-2 平成21年度海辺の自然塾の開催状況

第3回 砂丘に生きる昆虫たちの世界

5月15日(土) 参加者17名
講師：小樽市総合博物館 山本 亜生 学芸員

第4回 砂丘のアリたち～エゾアカヤマアリと生命のつながり～

7月17日(土) 参加者8名
講師：北海道大学大学院地球環境科学研究院 東 正剛 教授

第5回 石狩湾はきれいになったか～海底砂の分析・研究から～

平成23年1月29日(土) 参加者36名

講師：藤女子大学人間生活学部 乗木 新一郎 教授

第6回 海と川をつなぐ石狩湾の魚～シラウオの研究から～

平成23年2月19日(土) 参加者12名

講師：道立総合研究機構中央水産試験場 山口 幹人 研究員

2. 展示室、企画展示

平成22年度は、常設展示、市民による展示コーナー、DVD鑑賞、休憩スペース、川や沿岸海域の生物の飼育水槽の展示のほか、海辺の素材で簡単なクラフトを楽しむコーナーを設けました。市民による展示コーナーで開催した企画展示は表1-3のとおりです。

表1-3 企画展開催状況

開催期間	タイトル
4月29日～ 5月9日	海辺の花ごよみ～平成21年観察報告～ 平成21年に撮影した花や昆虫の写真を展示。 (主催：石狩浜定期観察の会)
5月12日～ 6月28日	石狩浜の猛禽類写真展 石狩浜で見られる猛禽類を写真で紹介。 (協力：石狩鳥類研究会)
7月1日～ 8月9日	全国海辺の保全活動展 全国各地の海岸保全活動を写真や資料で紹介。 (ふるさと海辺フォーラム関連事業)
8月12日～ 8月22日	海辺の環境保全ポスター展 市内小学生による環境ポスター展出展作品のうち、 海・海辺の保全を訴えるものを展示。
8月26日～ 9月12日	俳句を散策の友に 海浜植物を詠った俳句と植物の写真を展示、俳句を 掲載した冊子を配布。 (協力：北海道俳句協会委員 佐藤尚輔氏)
9月15日～ 9月26日	石狩砂丘のきのこ展 石狩砂丘に生育するキノコを写真や標本で紹介。 (主催：NPO 法人北方菌類フォーラム)
9月30日～10月17日	地図と航空写真から見た石狩川河口の変遷 明治期から現在まで、石狩川河口の地形や土地利用 の変遷を示した国土地理院地図や航空写真を展示。 (いしかり砂丘の風資料館・石狩市民図書館連携事業)

10月21日～11月3日	石狩浜の花暦～今年の観察報告～ 平成22年に撮影した花や昆虫の写真を展示。 (主催：石狩浜定期観察の会)
--------------	--

4. 幼稚園、小中学校への学習指導

平成22年度、センターを利用した学校等は表1-4のとおりでした。

なお、小中学校が石狩浜で取り組める自然や環境保全に関する学習プログラムを示した「石狩浜学習のすすめ」をHP上で配信しています。

表1-4 学校等利用状況

日にち	学校・学年	内容	教員	学生・生徒
6月6日(火)	北海道大学大学院農学 研究院花卉緑地研究室	見学、説明案内	1	5
6月19日(土)	酪農学園大学	見学と説明案内、現地視察 (車乗り入れ地等)	2	37
6月25日(金)	発寒幼稚園	自由見学	2	30
7月15日(木)	紅南小学校	自由見学	2	43
7月15日(木)	石狩小学校1-3年	見本園観察案内・播種	5	33
7月15日(木)	江別第2大麻幼稚園	自由見学		63
7月16日(金)	石狩中学校1年	石狩浜学習のすすめ①-③	4	29
9月13日(水)	石狩中学校1年	石狩浜学習のすすめ②-⑥	3	29
9月13日(水)	生振小学校	自由見学	2	15
9月21・24・ 29日(火・金・ 水)	石狩小学校5年	石狩浜学習のすすめ①-⑥	1	18
10月22日(金)	こどもエコクラブ紅 南探検隊	カミネッコンによるカシワ の播種とスライドショー	3	21
10月29日(金)	北海道教育大学	見学、説明案内	1	19

5. 講師派遣事業

平成22年度、講師派遣の依頼を受けて指導等を行った事業は表1-5のとおりです。

なお、センターで行った講義等については、次の項に含めました。

表1-5 講師派遣状況

日にち	団体名	人数	内容
10月30日(土)	小樽市総合博物 館」	26	石狩海岸の自然と石狩浜海浜 植物保護センターの活動・課題
1月27日(木)	花と緑の協議会	15	海辺の花と緑の自然史 地域の自然環境へのまなざし

6. 研究会・学会等発表

平成 23 年 3 月 8 日～12 日の日程で行われた、日本生態学会札幌大会において、表のとおり、シンポジウム「日本の砂丘植生の現状と課題」の中で「石狩浜の海浜植物保全の事例と今後の方向性～行政側の視点から～」をテーマに、発表しました。

表 1-6 研究会・学会発表状況

日にち	学会名	発表内容
3月9日(水)	日本生態学会札幌大会	石狩浜の海浜植物保全の事例と今後の方向性～行政側の視点から～

7. 施設利用

平成 22 年度、センター団体利用状況を表 1-7 に示しました。

資料として、センター施設利用者の意見や感想を 17 ページに掲載しました。

表 1-7 石狩浜海浜植物保護センター団体利用状況

実施日程	利用団体	人数	内容
5月6日(金)	三井トラベルツアー	24名	解説、館内見学
5月17日(月)	札幌市地区老人クラブ	20名	館内自由見学
6月3日(木)	北海道森林管理局	19名	館内自由見学
6月26日(土)	札幌彫刻の森美術館	16名	館内自由見学
8月2日(月)	札幌市平和幼稚園冒険クラブ	44名	見本園自然観察 海浜植物播種
9月5日(日)	札幌市博物館活動センター	31名	館内自由見学

8. ふるさと海辺フォーラム

海浜植物の保護活動を各地の海岸に広げていくことを目指し、海辺の自然保護活動に取り組む団体と交流を図っています。平成 22 年度は、7 月 10, 11 日（土, 日）に、海辺の環境保全に関する情報交流の場として、当センター主催で「ふるさと海辺フォーラム」を表 1-8 のとおり開催しました。

表 1-8 ふるさと海辺フォーラム開催状況

■開催日 7月10日(土)、11日(日)
■会場 石狩温泉ホテル番屋の湯
■基調講演(1日目) (財)日本自然保護協会 開発法子氏 タイトル：海浜と海浜植生の現状と保全ー市民参加の海岸植物群落調査からー

<p>■団体活動発表（1日目）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. NPO 法人 ゆい（神奈川県茅ヶ崎市） 2. 名取ハマボウフウの会（宮城県名取市） 3. セツ浜ハマボウフウの会（宮城県セツ浜町） 4. 鳥取大学農学研究科生態工学研究室（鳥取県） 5. 銭函海岸の自然を守る会（北海道小樽市） 6. きたねむろ山菜エコランド（北海道中標津町） <p>■エクスカージョン（2日目）</p> <ol style="list-style-type: none"> ①はまなすの丘海浜植物等保護地区 ②石狩浜海浜植物保護センター ③車両走行による砂丘地形・植生破壊地、砂丘地形・植生回復試験区 <p>■石狩浜の自然と保全活動に関する報告</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.（はじめに）北海道大学農学研究院農学研究科 2. 石狩浜定期観察の会 3. NPO 法人北方菌類フォーラム 4. 専修大学北海道短大みどりの総合学科 5. 石狩浜海浜植物保護センター
<p>■参加者数</p> <p>1日目 55名 2日目 47名</p>
<p>■海辺の保全活動写真展出展団体数</p> <p>19団体</p>

9. 刊行物・HP

平成 22 年度に配布した刊行物等の配布状況は表 1-9 のとおりでした。

HP は、<http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/kaihinsyokubutu/index.htm> で配信し、行事情報、開花情報を中心に更新しました。ホームページアクセス数は表 1-10 のとおりです。

表 1-9 刊行物発行状況

刊行物名	内容	配布場所
通信誌「はまぼうふ う」vol.34～37	浜の自然情報やセンターの行事 予定などを掲載	石狩浜海浜植物保護センター と市内外公共施設
石狩浜自然観察 ハンドブック	石狩浜の自然について、写真、 イラストなどで紹介(A5版 30 ページ、300 円で販売)	石狩浜海浜植物保護センタ ーとはまなすの丘公園 ビジターセンター
パンフレット 「石狩浜海浜植物 保護センター」	石狩浜海浜植物保護センターの 施設紹介	石狩浜海浜植物保護センタ ーと市内外公共施設

表 1-10 石狩浜海浜植物保護センターホームページアクセス数（単位：件）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
件数	1,209	1,492	1,570	1,589	1,428	1,271
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
件数	1,143	819	906	1,514	1,206	1,123
年間計	15,270					
月平均	1,273					

10. 海浜植物種子の配布

来館者が記念に海浜植物の種子を持ち帰り、自宅の庭など身近な場所で育て親しみを持つことで、再び石狩浜を訪問するきっかけになるよう、またハマボウフウについては、センター前の砂丘に蒔いてもらうため、海浜植物の種子を植物種の解説と育て方を書いたシートとともに来館者へ配布しました。配布した種子の種類と数は、表 1-11 に示しました。

表 1-11 海浜植物種子配布状況

種類	配布袋数	種類	配布袋数
ハマボウフウ	713	ハマヒルガオ	334
ハマエンドウ	361	エゾカワラナデシコ	556
ハマハタザオ	343		

2. 調査・研究

平成 22 年度の主要な調査研究は、以下のとおり実施しました。

1. 石狩海岸における利用状況モニタリングと植生回復実験

1) 事業概要

平成 20 年度より 10 年間かけて、北海道大学大学院農学研究院がセンターと共同で、海浜植生域でのオフロード車等の走行が植生に及ぼす影響を明らかにするため、オフロード車等の走行量モニタリング調査に取り組んでいます。あわせて、調査区域から車両等を排除し、車両走行により生じた侵食穴（風食凹地）に砂を埋め戻した上で防風措置を行い、植生の回復と地形変化の変遷を同様にモニタリングしていく事業に取り組んでいます。

2) 調査結果概要

平成 22 年度から、石狩湾新港寄りの砂丘上にカウンタを設置し、通行量調査を開始しました。これまで調査していたサイトを Site1、新しく調査を開始したサイトを Site2 としました。Site1 では利用は週末に集中していましたが、延べ利用数は最大で 6 台と少なく、年々減少している様子がうかがえました。新たに設置された柵や看板の効果であるかどうかはまだ断定できませんが、今後の変化を注視します。

Site2 では、一日最大で 60 台が通行しており、Site1 に比べて 10 倍もの利用圧があることが確認されました。毎週のように利用が確認されましたが、利用自体はやはり週末や祝祭日に集中していました。調査が今年度からであったため、柵や看板の効果を検証することはできませんが、今後の動向を注視します。

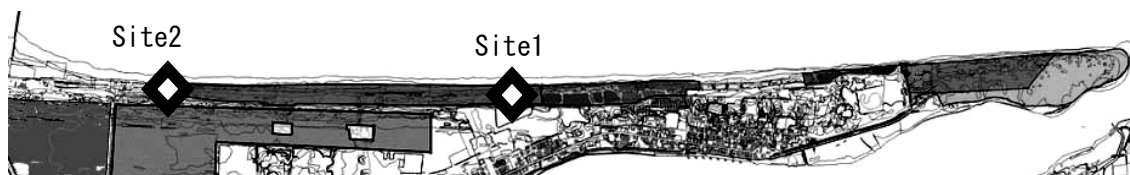


表 2-1 Site1 の車走行カウント数の年推移（単位：回）

	2008 年	2009 年	2010 年
調査期間	80	197	189
カウント日数	14	26	16
カウント総数	61	80	36
日当たり最大カウント数	12	9	6

表 2-2 Site2 の 2010 年における車走行カウント数（単位：回）

	2010 年
調査期間	189
カウント日数	56
カウント総数	829
日当たり最大カウント数	60

植生回復実験は、地形破壊がなく車両を排除しただけの試験区（車両排除試験区）では、既存植生の根茎が残されていたため、1年目から植生の回復がみられ、2年目の2010年も2009年とほぼ同様の植生回復状況でした。地形が破壊されたため砂の埋め戻しを行った試験区（地形回復試験区）では、2009年はほとんど植生の回復が見られませんでした。2年目の2010年は少しずつですが、植生の回復が見られました。

今後も引き続き、植生回復がどのように進むか推移を見ていきます。（参考：『石狩海岸における利用状況モニタリングと植生回復実験』平成22年の中間報告（北海道大学大学院農学研究院 園芸緑地学分野 花卉・緑地計画学研究室）より）



図 2-1 植生回復試験地の様子（車両排除試験区）



図 2-2 植生回復試験地の様子（地形回復試験区）

2. はまなすの丘海岸線侵食状況調査

はまなすの丘海岸線の侵食状況を把握するため、平成21年秋に浜崖の縁から2mおきに3本杭を立てた地点A～Hにおける浜崖の後退状況を、現地を歩いて調査しました。平成21年10月から平成22年春にかけて、砂嘴先端部付近F, G, Hで10m以上の侵食があり、G, Hでは浜崖がほぼ消失し、汀線から植生域までほぼ平坦な地形となりました。浜崖の侵食は、夏期よりも冬期に著しいことがわかりました。

杭が消失する前に杭を追加して設置し、継続調査ができた箇所の侵食状況は、平成21年から23年にかけて最大で16.8m、最小で5.1mでした。

海浜植生や砂丘植生に生息する生物相にも影響を及ぼすと考えられます。今後も継続調査を行っていきます。

表 2-3 石狩川河口砂嘴浜崖侵食状況

	H21.10-H22.5 侵食長	H22.5-H22.10 侵食長	H22.10-H23.3 侵食長	H21.10-H23.3 侵食長
A	-6m 以上	杭消失		-6m 以上
B	-5.1m	0m	0m	-5.1m
C	-6m 以上	杭消失		-6m 以上
D	-5.2m	-0.8m	-2.8m	-8.8m
E	-6m	-1.5m	-9.3m	-16.8m
F	-10m	-2.5m	-1.2m	-13.7m
G	-13m	杭消失		-13m 以上
H	-10m	杭消失		-10m 以上



4. 植物開花状況等調査

石狩浜の自然情報収集のため、4月から10月までの第1, 3, 5水曜日、植物の開花状況及び観察される野鳥を記録しました。調査時に開花植物等の写真も撮影し、開花情報としてセンター展示室に掲示しました。

石狩浜定期観察の会を中心とした延べ119名の市民ボランティアの方々が取り組みました。

5. 自然情報の収集・まとめ

これまで発行している石狩浜海浜植物保護センター調査研究報告は、表 2-4 のとおりで、HP 上で閲覧できます。

表 2-4 石狩浜海浜植物保護センター調査研究報告

報告書名	号数
石狩浜における植生モニタリング区の設置と 14 年間の植生変化(2002 年度調査)	1 号
石狩川河口湿地部における植生モニタリング区設置と植生概況 (2003 年度調査)	2 号
石狩海岸林の植生概要 (2004 年度調査)	3 号
石狩浜定期観察による植物開花状況の記録 (2004/2005)	4 号
石狩浜定期観察による植物開花状況および野鳥の記録 (2006)	5 号
聚富海岸の植生概況 (2007 年度調査)	6 号
石狩浜定期観察による植物開花状況および野鳥の記録 (2007)	7 号
1989 年以降に記録された石狩浜の植物種リスト	8 号

3. 見本園の整備・苗の育成

1. 見本園

センターの見本園は、展示施設に隣接した約 2,100m²の敷地です。約半分は自然植生ですが、石狩浜で見られるおもな植物が観察できるよう、温室で種子から育てた苗も移植しています。

平成 12 年度のオープン以来、裸地への移植を行ってきましたが、現在では、ハマニンニク、コウボウシバ、カモガヤ、ススキ、ヒメムカシヨモギ、アキグミ等の繁茂が著しく、他の海浜植物の観察がしにくい状況になったため、刈り取りや掘り起こしによる除去を行っています。また、ススキやアキグミ、外来植物も増えたため、これらも積極的に除去しています。

移植した海浜植物は、数年で株が衰退してくるので、新たに育成した苗を移植しています。

温室の南側は、はまなすの丘の湿原に自生するおもな植物を観察することができるよう、湿地環境をつくり、タチギボウシやノハナショウブなどを移植しています。

平成 22 年度は、ヒメイズイ、イソスミレ、エゾスカシユリ、カセンソウ等の移植を行いました。

また、北海道大学大学院農学研究院の企画により、日本造園学会北海道支部学生セッションにおいて、当センター見本園のデザインコンペが行われ、石狩砂丘の植生の带状構造を再現してはどうか、という提案がありました。また、来館者や行事参加者の参加による見本園の管理が提案されました。

今後は、この提案も参考にしつつ、見本園づくりに取り組んでいくこととします。



図 3-1 見本園概況

2. 市内公園花壇等での海浜植物栽培

センターでは、見本園や裸地化した海浜地などへの移植、市民への普及啓発のための配布、試験研究への提供を目的として、約 20 種の石狩浜自生植物の苗を作っています。これらの苗の一部は、市民が身近に海浜植物に親しめるよう、市内の公園 2 箇所の花壇に移植し、また湿生植物を紅葉山公園の池でイカダに乗せて市民の目を楽しませています。平成 22 年度、海浜植物を育てた公園は、表 3-1 のとおりです。公園花壇については、管理は地元のボランティアの方々が行っていますが、継続した取り組みが難しい地域もあり、今後継続を検討する必要があります。

表 3-1 平成 22 年市街地公園花壇への海浜植物移植状況

公園名	海浜植物の種類
紅南公園 花川南公園	エソカワラナデシコ、ノコギリソウ、エソカワラマツバ、ウンラン、イソスミレ、ハマハタザオ、コガネギク、ハマボウフウ、ナミキソウ、エソスカシユリ、カセンソウ
紅葉山公園 (イカダ)	ノハナショウブ、タチギボウシ、ナガボノシロワレモコウ、クサレダマ

4. 環境整備事業

石狩浜の自然に親しみやすい環境づくりのため、観察路の維持と外来植物の除去を行いました。

1. 親船名無沼観察路

通称親船名無沼は、平成 17 年度に行った動植物相調査により、多様な水生動植物が生息生育することがわかりました。多くの人が沼の自然に親しめるよう、道路から沼岸まで近づける歩道、観察場を整備しました。



図 4-1 通称親船名無沼の位置

2. 石狩浜海浜植物保護センター～弁天歴史公園散策路

これまで、石狩浜海浜植物保護センターから弁天歴史公園などの周辺施設へ行くには、車道を歩かなければなりませんでした。海浜植物などの自然に親しみながらのんびり散策して廻れるよう、「石狩浜海浜植物保護センター」→「弁天歴史公園」→ブロンズ像「無辜の民」→「ヴィジターセンター」を結ぶ散策路を検討しています。



図 4-2 海浜植物保護センターから弁天歴史公園までの散策路のルート

これまで、石狩浜海浜植物保護センターから弁天歴史公園までの間に、海浜植物群落やニセアカシア林を通る散策路を整備しました。

3. 外来植物等の除去作業

はまなすの丘の木道周辺は、多くの観光客や散策者が訪れ、石狩川河口の海浜植物群落の景観を楽しむ場所ですが、ニセアカシア、カモガヤなどの外来植物及び内陸性植物のススキが増加し、景観が損なわれつつあります。景観保全のため、木道周辺の外来植物等の除去に取り組んでいます。

平成 21 年度は以下のとおり実施しましたが、除去が必要な箇所はまだ多く残っており、今後も継続していきます。

表 4-1 外来植物等の除去作業実施状況

日にち	参加者数	参加団体等
4月24日(土)	45名	石狩市緑化推進協議会、石狩ライオンズクラブ、親船高齢者クラブハマナス会、石狩浜定期観察の会、ふるさと自然塾、
10月16日(土)	58名	石狩観光協会、センター運営委員会、石狩観光協会、石狩植物愛好会 ほか

5. 来館者数

平成 22 年度の開館期間中（4 月 2 日～11 月 3 日）の来館者数は、9,321 人で、これまでで最高となりました。5～6 月の週末に好天日が多かったことや、のぼりを立ててアピールしたことなどが理由と考えられます。

月別来館者数は、図 5-1 に示しました。また、平成 12 年度からの来館者数の変化を図 5-2 に示しました。

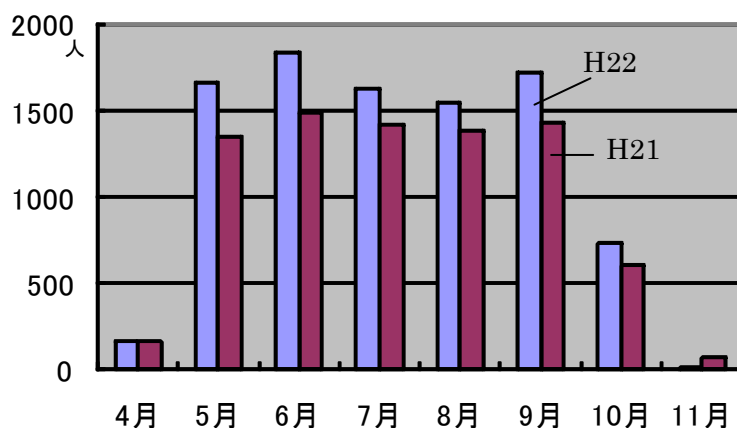


図 5-1 平成 21 年度、22 年度来館者数の季節推移

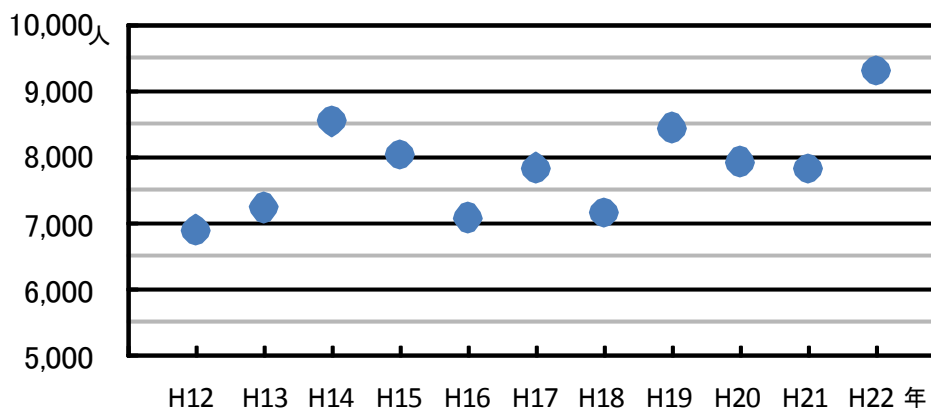


図 5-2 平成 12～22 年度の来館者数の年変化

6. 保護・回復対策

1. 石狩川河口海浜植物等保護地区の監視

石狩市石狩川河口海浜植物等保護条例によって定めている石狩川河口海浜植物等保護地区において、4月から10月まで、監視員2名により、ハマボウフウなど海浜植物の採取や、バイク等の乗入れ等を防ぐための監視を行いました。

春先はハマボウフウの採取者が多く、海水浴シーズンは、キャンプ等で保護区内に進入する利用者が、秋にはハマナスの実を採取する人が増えるなど、監視による採取防止効果は大きいと思われまます。

平成18年度からは、保護地区の看板の数を増やす、海側から保護地区への立ち入りを防ぐためのロープ柵を延長するなど、保護地区への立ち入り防止対策を強めています。

2. 車乗入れ防止柵の設置・維持管理

図6-1に示す、石狩浜海水浴場を挟んで東西に約1kmの範囲は、平成4年より石狩市が独自で車乗入れ防止柵を設置し、車走行による植生の破壊を防いでいます。しかし、ロープを切断したりかいくぐったりして侵入するサンドバギー車やモトクロスバイクが後を絶たないため、平成21年度より、常習的な侵入路においてはワイヤーや鋼管杭、看板設置によって侵入防止対策を強化しています。

その結果、平成22年度は、植生上を走行した車両および走行跡は確認できず、対策の効果が見られました。

石狩湾新港側約3kmの海岸保全区域には、北海道空知総合振興局札幌建設管理部(旧札幌土木現業所)が、「石狩湾沿岸海岸保全基本計画」(平成15年、北海道)に基づき、平成17年より車乗り入れ防止柵を設置しています。この地域においては、サンドバギー車やモトクロスバイクの植生上への進入が頻繁に確認され、特に石狩湾新港に近い箇所から進入していることがわかっています。

平成22年度は、前年度に行われた総務省行政評価局による「石狩浜の海浜植物保全に関する『あっせん』」に基づき、常習的な侵入口に海浜植物の自生地であることを示す看板を立て、鋼管杭を設置するなど、侵入防止対策を強化しました。

しかし、鋼管杭が設置されていない箇所のトラロープを切断し新たな侵入口にするなど、侵入は後を絶たない状況です。

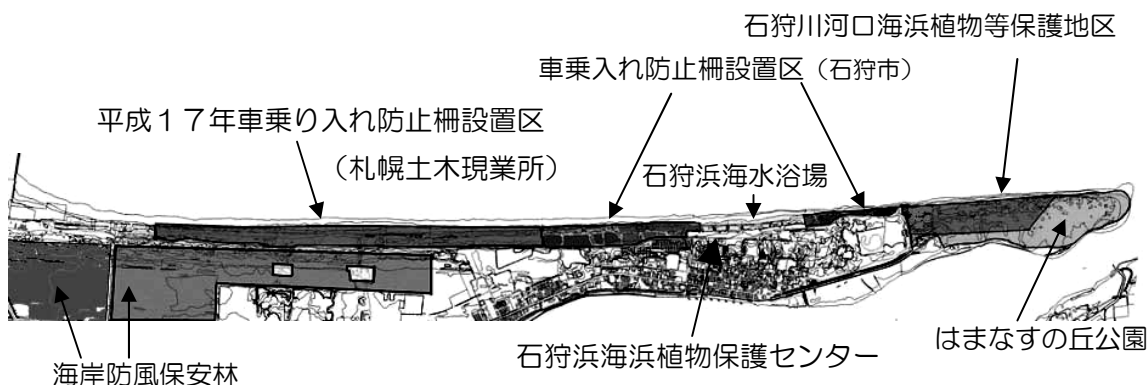


図6-1 車乗り入れ防止柵設置区および保護区の位置

3. 石狩浜環境保全連絡会議の設置・協議

石狩湾新港から三線浜、石狩川河口（右岸地区含む）に至る、石狩浜の保全対策を検討するため、関係行政機関による石狩浜環境保全連絡会議を平成21年7月1日より発足しました。会議の構成は、海岸防風保安林を所管する石狩森林管理署、海浜地のうち海岸保全区域及び一般海浜地を管理する札幌土木現業所、港湾区域を管理する石狩湾新港管理組合及び石狩市です。

平成22年度は、9月に、図6-1に示した石狩市および札幌建設監理部で設置した柵の状況を視察しました。対策の効果があまり見られない状況を確認し、当該地域の法令による保護地区指定についての検討も始めました。



平成22年度より設置の看板

資料

行事参加者アンケート結果

1. 自然観察会 (6/12・回答数：23)

この観察会は何で知りましたか？	どのようなことを期待して参加しましたか？		
広報いしかり	6	自然とふれあう	16
新聞	5	動植物の生態について学ぶ	7
あい風通信 (石狩市民カレッジ)	4	植物の名前をおぼえる	8
北海道民カレッジ	5	石狩浜について知る	15
あいボード・ポスター	1	石狩浜の「か」や学習指導に活かす	0
HP	0	絵手紙や俳句などの材料集め	1
その他 (他団体の通信誌など)	6	知人や家族とのふれあい	1
		体を動かす	4
		その他 (野鳥を見るため)	1
内容はいかがでしたか？		観察会のコースはいかがでしたか？	
とてもわかりやすかった	11	長い	0
わかりやすかった	11	ちょうどいい	23
ふつう	0	短い	0
わかりやすかった	0		
聞こえにくかった	0		
難しかった	0		
もっと詳しく聞きたかった	1		
もっと歩きたかった	0		
その他 (無記入)	1		

2. こども自然教室 (10/9・回答数：7)

楽しかったですか？	つまらなかったこと、嫌だったことは？		
とてもたのしかった	7	ある	0
まあまあたのしかった	0	ない	7
あまりたのしくなかった	0		
楽しかったこと、よかったことは？		リーダーの話はわかりやすかったですか？	
自然観察	2	とてもわかりやすかった	5
砂鉄集め	5	まあまあわかりやすかった	2
砂浜に流れ着いたものさがし	1	あまり楽しくなかった	0
ネイチャーループ	1		
おべんとう	3	こども自然教室にまた来たいと思いますか？	
砂の観察・実験	1	ぜひ来たい	6
砂絵	4	機会があれば来たい	1
壁飾りづくり	6	来たくない	0
友達ができたこと	1		

石狩浜海浜植物保護センター利用者アンケート結果

(回答数 16)

お住まいは、どちらですか？		よろしければ年齢をお聞かせください	
石狩市内	3	20歳未満	4
札幌市 北区	3	20代	0
札幌市 東区	1	30代	1
札幌市 西区	2	40代	3
札幌市 豊平区	2	50代	4
札幌市 中央区	1	60歳以上	4
札幌市 白石区	0		
札幌市 南区	0	石狩浜へは、年に何回こられますか？	
札幌市 手稲区	1	初めて	4
札幌市 厚別区	1	数年に1回	2
札幌市 清田区	0	年に1回	2
上記2市以外の北海道内	1	年に複数回	8
北海道外	1		

当センターについて何で知りましたか？		当センターの利用目的は？	
新聞・情報誌、広報等	0	自然学習や情報の収集	5
インターネット	1	行事への参加	0
ビジターセンターでの情報	0	観光・見学	11
看板	1	休息	4
この場所を通りかかって	11	その他	2
口コミ	1		
その他（海水浴の放送、地域新聞）	2		

■ センターを利用して良いと思われた点、改善した方がよいと思われた点、感想等

【 良い点 】

- ・その時期の情報がわかりやすく展示されているので、ためになるし楽しめます。
- ・種やいろいろな物にさわられて、勉強になりました。
- ・工作コーナーが楽しかった。海の生き物水槽があってよかった。
- ・庭、石狩浜の歴史等わかってよかった展望台の山の名前がわかる写真もよかった。
- ・植物がフェルトで立体的に作られていて楽しかった。
- ・まだ咲いてない花を写真で見られるのはとても良いと思います。
- ・小人～大人までそれぞれ好奇心を満足させることができる内容ですばらしいです。音楽もすてき。

【 改善点、要望 】

- ・花の種を増やしてほしい。
- ・説明してもらおうことが良い。

【感想】

- ・楽しく学習ができ、大変よいところ。
- ・自然体験ができない中、このようなことをさせて頂きありがとうございます。
- ・くわしい。
- ・自然を大切にしていきたい…と強く感じました。
- ・分かりやすく詳しく見やすく展示してあり、びっくりしました。
- ・石狩市は札幌市と違ってゆっくり時間が流れているような気がします。
- ・ここでの流れている音楽がとてもこころよく聴かれ楽しくなってきます。
石狩市全体の公共の場でかかっている音楽はとてもいい選択をしています。

沿革

海浜植物保護センター開設の目的

石狩海岸地域は、北海道自然環境保全指針において「すぐれた自然地域」に抽出されるとともに、大都市近郊において、海岸砂丘生態系を色濃く残す自然海岸として、全国的にも大変貴重な場所となっています。しかし、美しい海浜植物や雄大な海浜景観は、レジャーをはじめとする過度な利用により、次第に失われつつあります。

このような状況において、豊かな海辺の自然を市民共有の財産として保全し、後世へ残して行くためには、市民、行政、研究機関とが協働して普及啓発活動や調査研究活動に取り組むことが不可欠です。石狩海浜植物保護センターは、その活動拠点として、平成12年4月に開設されました。

施設と業務内容

施設は、①海浜植物の保護についての調査・研究、②石狩浜保全への啓発、を目的としたもので、屋内は、大きく展示室と実験室、屋外は、温室と見本園に分かれています。

展示の方針は、来館者に海浜植物をはじめとする石狩浜の自然情報の提供や保全活動状況の紹介、作品展示などを行うことができる、更新性を備えた市民参加型の展示としています。また、展示室は研修機能を備え、フィールドと一体となった研修の場を提供しています。

見本園は、石狩浜に生育する海浜植物を一同に集め、その生態観察の場となっています。

調査研究機能としては、保全に向けた海浜植物の生態研究のために、実験室、および研究対象植物を育成するために温室が備わっています。また、見本園の一部も、調査・試験区として利用することができます。

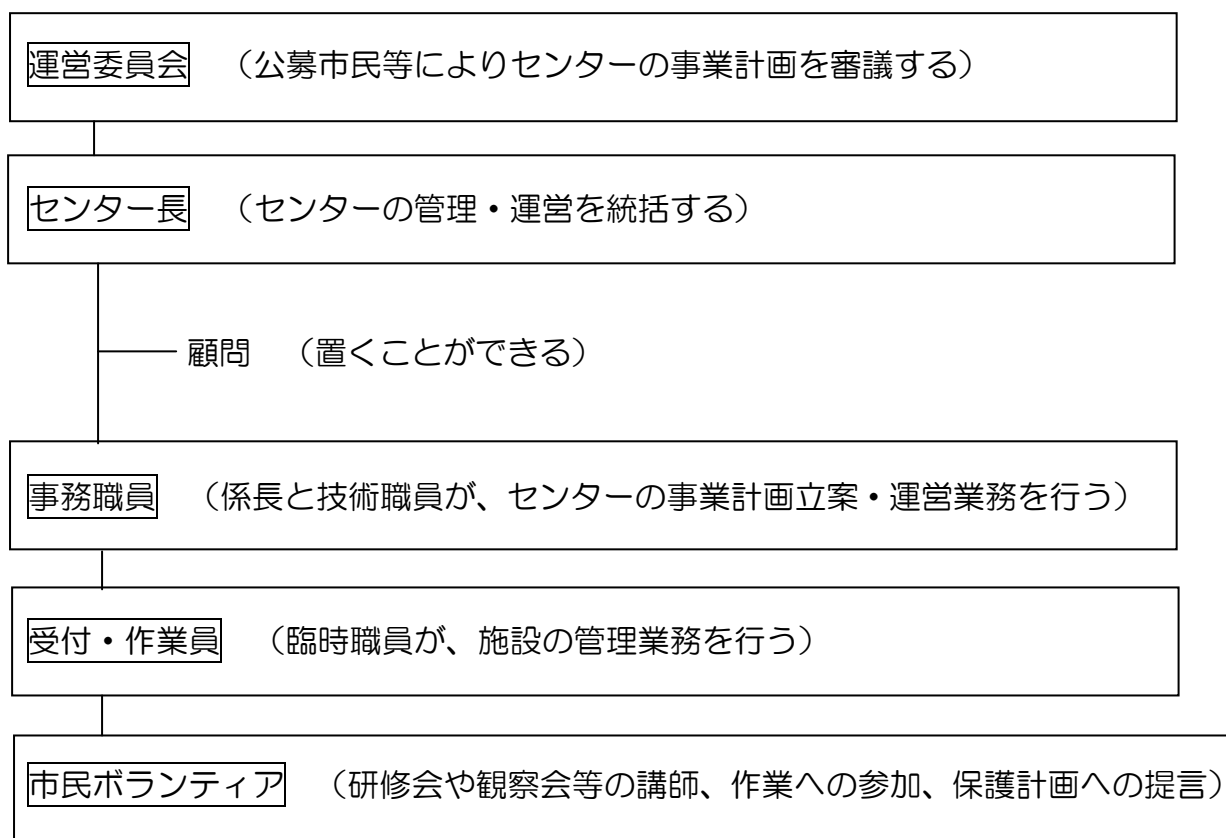
海浜植物保護センター施設略図



以下、保護センターにおける主要業務を示します。

- 啓発・普及業務
 - 展示施設・見本園の整備・更新
 - 施設見学者への対応
 - 市民講座・観察会等の開催
 - 市民に対する情報提供・機関紙の発行・ホームページの管理・運営
 - ボランティア・各種団体・研究機関との連絡調整
- 調査・研究業務
 - 石狩浜の動植物の生息、生育状況に関する調査
 - 海浜植物の復元と増殖に関する研究と実施
 - 海浜植物の保護・保全計画の立案と実施
 - ボランティアグループの調査研究活動支援

管理運営・組織図



平成22年度石狩浜海浜植物保護センター活動報告書

平成23年8月発行

発行 石狩市

編集 市民生活部環境室石狩浜海浜植物保護センター

開館期間中 〒061-3372 石狩市弁天町 48-1

tel.0133-60-6107 fax.0133-60-6146

冬季閉館中 〒061-3292 石狩市花川北6条1丁目 30-2

tel.0133-72-3240 fax.0133-75-2275

E-mail ihama@city.ishikari.hokkaido.jp

HP <http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/kaihinsyokubutu/index.htm>